



まつもと公設民営バス
意見交換会資料

4. 3. 22

交通部 公共交通課

「まつもと公設民営バス」意見交換会



〒390-8620 松本市丸の内3-7

担当:交通部 公共交通課

電話:0263-34-3033

FAX:0263-34-3202

メール:k-koutsu@city.matsumoto.lg.jp



目次

- | | | |
|---|-------------------------|-------------|
| 1 | まつもと公設民営バスの取組みについて | 1 ページ |
| 2 | 松本市内の路線バスの現状 | 2 ～ 7 ページ |
| 3 | 「公民連携エリア委託方式」における事業スキーム | 8 ページ |
| 4 | 交通ネットワークの再編の考え方 | 9 ～ 11 ページ |
| 5 | 和田地区の路線について（アンケート集計含む） | 12 ～ 24 ページ |



松本市路線バス公設民営化事業

～新たな枠組でバス運営を「シンカ」させる～

公民連携による路線バス運行制度・交通ネットワークの再編

■目的

- ・路線バスの利便向上と利用促進
- ・市民の足となる持続可能な公共交通網の確保
- ・最適な公民の役割分担による健全運行



■検討内容

- ・路線バス運行制度・事業スキームの設計
- ・交通事業者のインセンティブ設計
- ・市内全路線網再編の方針・考え方の整理
- ・体系別の運行水準の設定と新たな路線網
- ・地域特性に応じ地域内路線網の維持・拡大
- ・新制度移行に向けた業務委託方法の検討

スケジュール

令和3年度

1 運行制度の見直し

- (1) 運行制度事業スキームの設計
- (2) 交通ネットワーク再編成案の作成
- (3) キャッシュレス化の検討

報告書に基づき説明
・
関係協議

2 関係協議

- (1) 関係機関・運行事業者との協議・調整
- (2) 地元住民との相談・運行形態の検討

令和4年度

3 新制度運行手続き

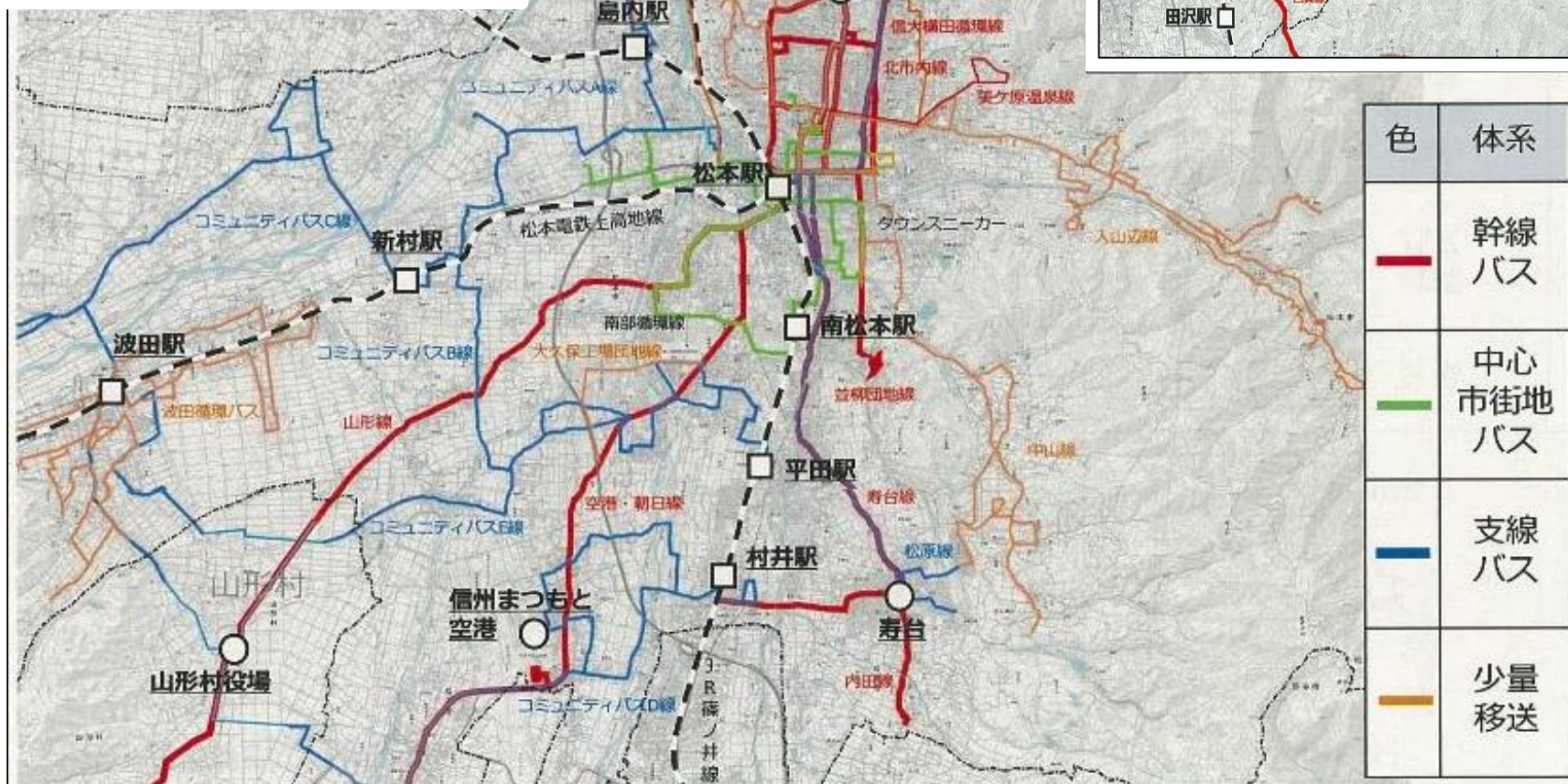
- (1) 運行事業者の選定
- (2) 路線・ダイヤの変更申請
- (3) 条例・規則等の変更
- (4) 各種契約手続き

新制度運行開始

松本市のバス交通体系

移動需要の大きさ	運行形態	体系	運行主体	運行事業者	道路運送法の位置付け	路線・ダイヤ等サービス水準の審査	運行形態	
移動需要が大きい幹線	交通事業者が運行	<p>アルピコ交通(株)自主路線</p> <p>幹線バス 信大横田(横田信大)循環線、美ヶ原温泉線、北市内線 並柳団地線、寿台線、内田線(一部) 四賀線(一部)、山形線、空港・朝日線(一部) 岡田線</p> <p>支線バス 浅間線、新浅間線、松原線</p> <p>少量移送 大久保工場団地線</p>	アルピコ交通(株)	アルピコ交通(株)	第1条 (一般旅客自動車運送事業)	アルピコ交通(株)が 運輸局へ 申請または届出	アルピコ交通(株)が 自主運行	
		松本市					松本市が 協議路線として 赤字を補填	
一定の移動需要がある 交通空白地域	松本市が運行又は委託	<p>アルピコ交通(株)協議路線 ※廃止代替路線</p> <p>少量移送 四賀線(一部)、内田線(一部) アルプス公園線、稲核線、空港・朝日線(一部)</p>	松本市	アルピコ交通(株)	第1条 (一般旅客自動車運送事業)	松本市地域公共交通会議で協議	松本市が 運行を委託 赤字を補填	
		松本市					松本市が 運行を委託 赤字を補填	
移動需要が 少ない 交通空白地域	地域が主体と なって運行	<p>タウンズニーカー</p> <p>北コース、東コース、南コース、西コース</p> <p>南部循環線</p>	松本市	アルピコタク シー(株) 平成交通(有)	第8条 (家用 有償旅客 運送)	松本市が 長野県へ申請 または届出	松本市が 運行を委託 赤字を補填	
		<p>西部地域コミュニティバス</p> <p>A(島内・新村)線、B(南松本・新村)線 C(梓川・波田)線、D(村井・波田)線 E(平田・波田)線</p>					松本市 山形村	松本市・山形村が 運行を委託 赤字を補填
		<p>市営バス</p> <p>四賀線、奈川線</p>					松本市	松本市が 運行を委託
		<p>地域バス</p> <p>ほしみ線、入山辺線、中山線 波田循環バス、浅間・大村線 島内川東乗合タクシー</p>	地域の協議会	第1条 (一般旅客 自動車運送 事業)	松本市が 運輸局へ申請 または届出	地域の協議会が 運行を委託 松本市が補助金 を協議会へ支出		
		<p>波田循環バス(温泉便)、中山線、入山辺線 浅間・大村線 → アルピコタクシー(株) (ほしみ線 → 南安タクシー(有)) 波田循環バス(循環便)、島内川東乗合タクシー → 第一交通(株)</p>						

松本エリアのバス路線ネットワークの現状



色	体系
	幹線バス
	中心市街地バス
	支線バス
	少量移送

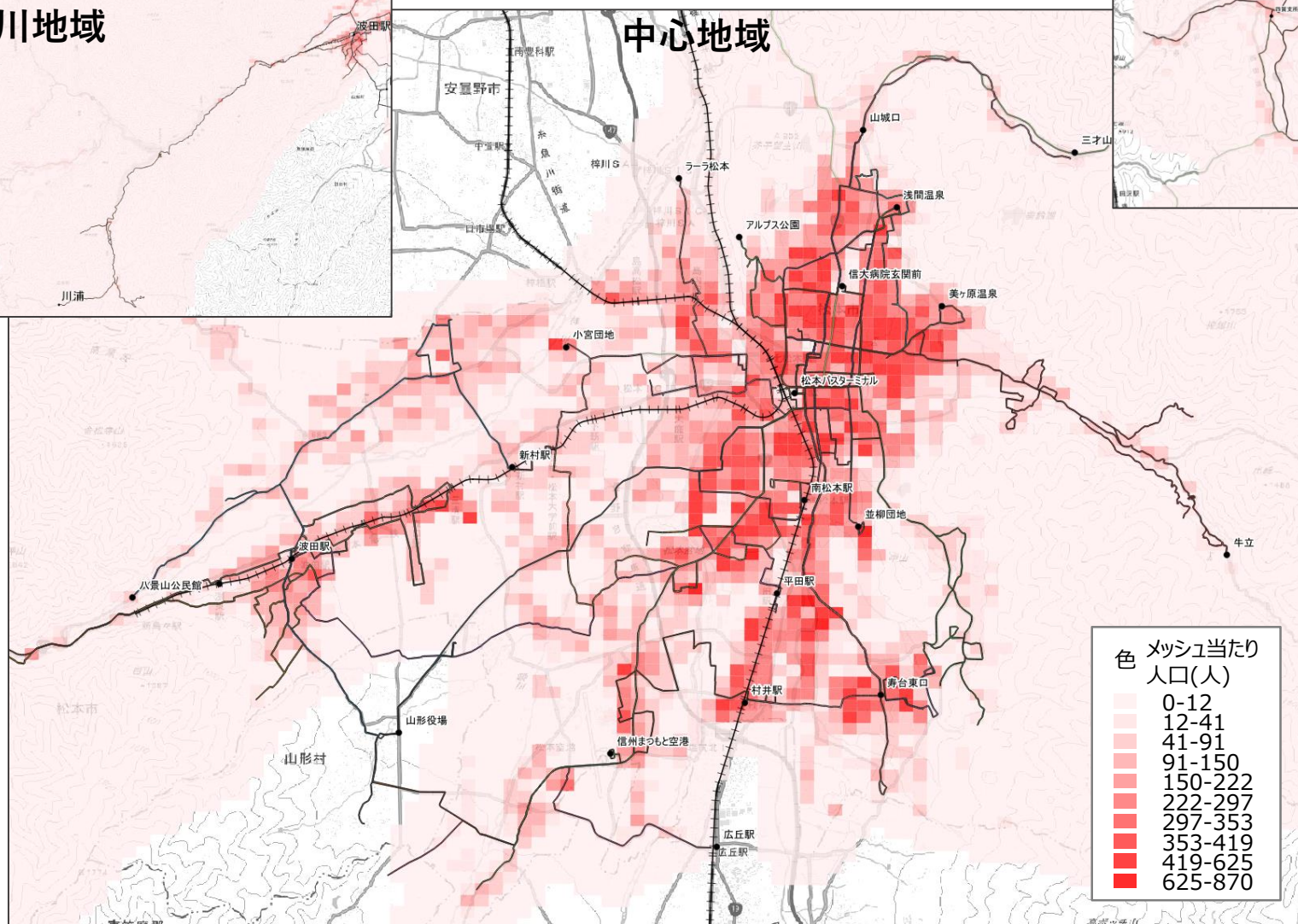
バス路線・人口メッシュ地図 (松本市全)

- 松本駅周辺の市街地に人口が集中
- 一部地域を除き、概ね人口の多寡と路線の有無は一致

奈川地域



中心地域



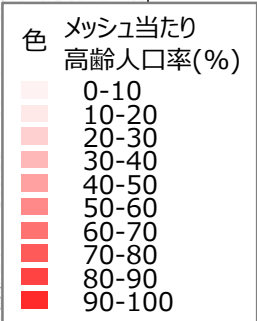
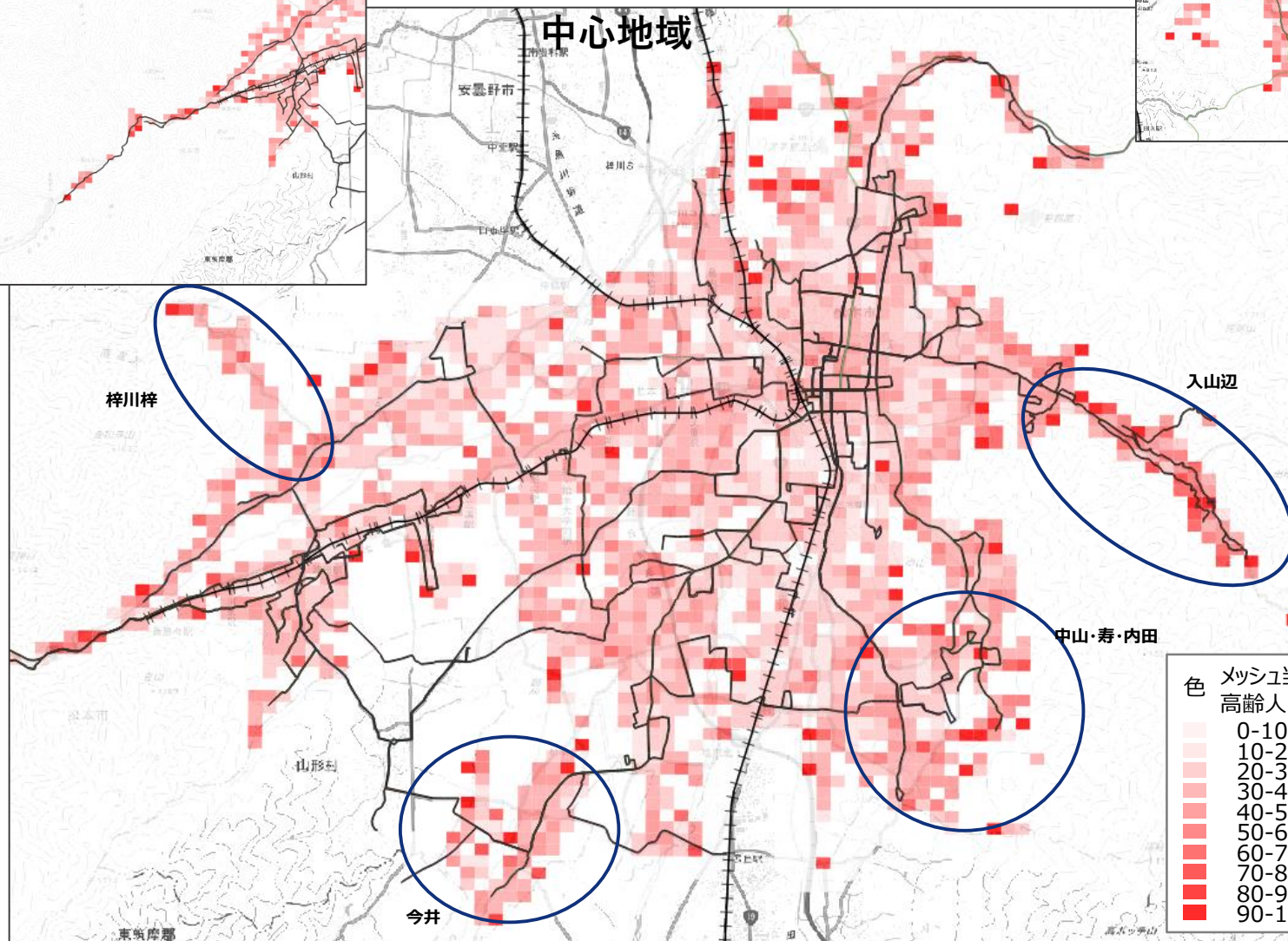
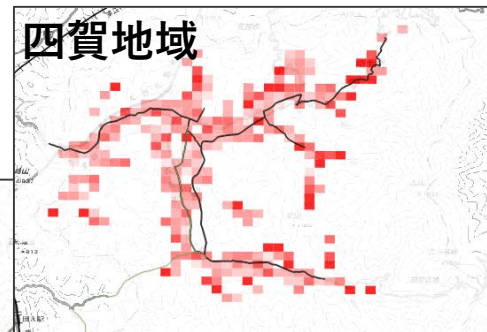
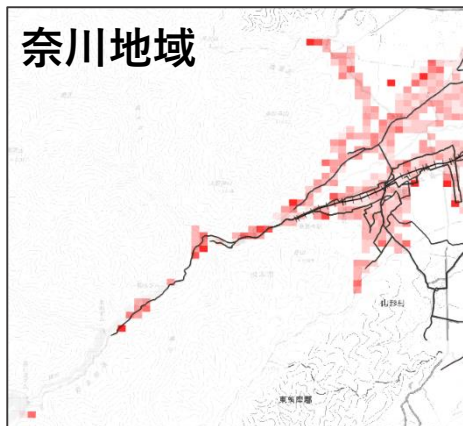
四賀地域



色	メッシュ当たり 人口(人)
Lightest Red	0-12
Light Red	12-41
Lighter Red	41-91
Light Red	91-150
Medium-Light Red	150-222
Medium Red	222-297
Medium-Dark Red	297-353
Dark Red	353-419
Very Dark Red	419-625
Darkest Red	625-870

バス路線・高齢化率メッシュ

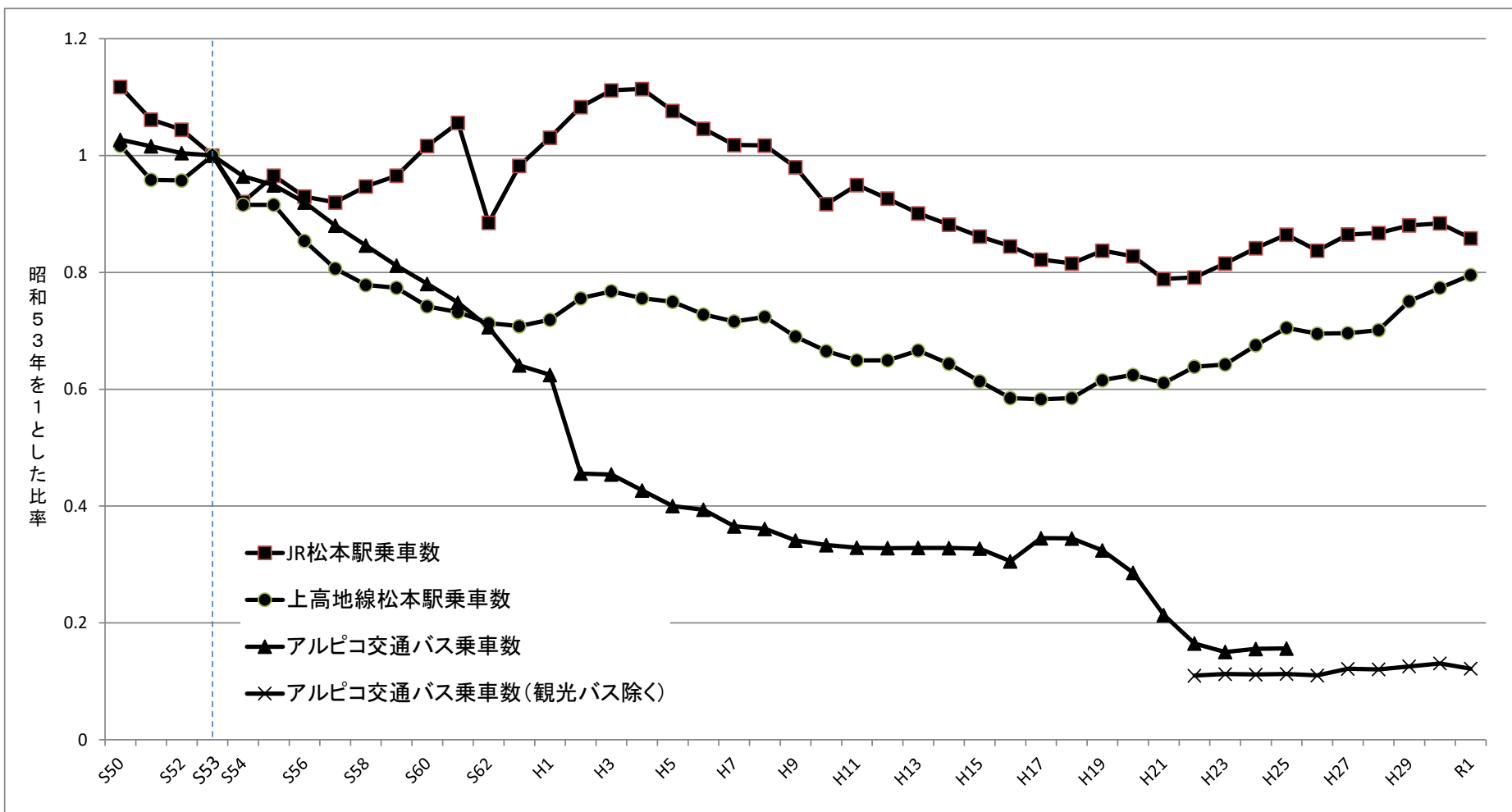
- 高齢化率は松本駅周辺の市街地において低く、市街地から離れると高い傾向
- 特に入山辺・中山・寿・内田・今井・梓川・四賀・奈川等の地域で高齢化率が高い



地域公共交通の現状

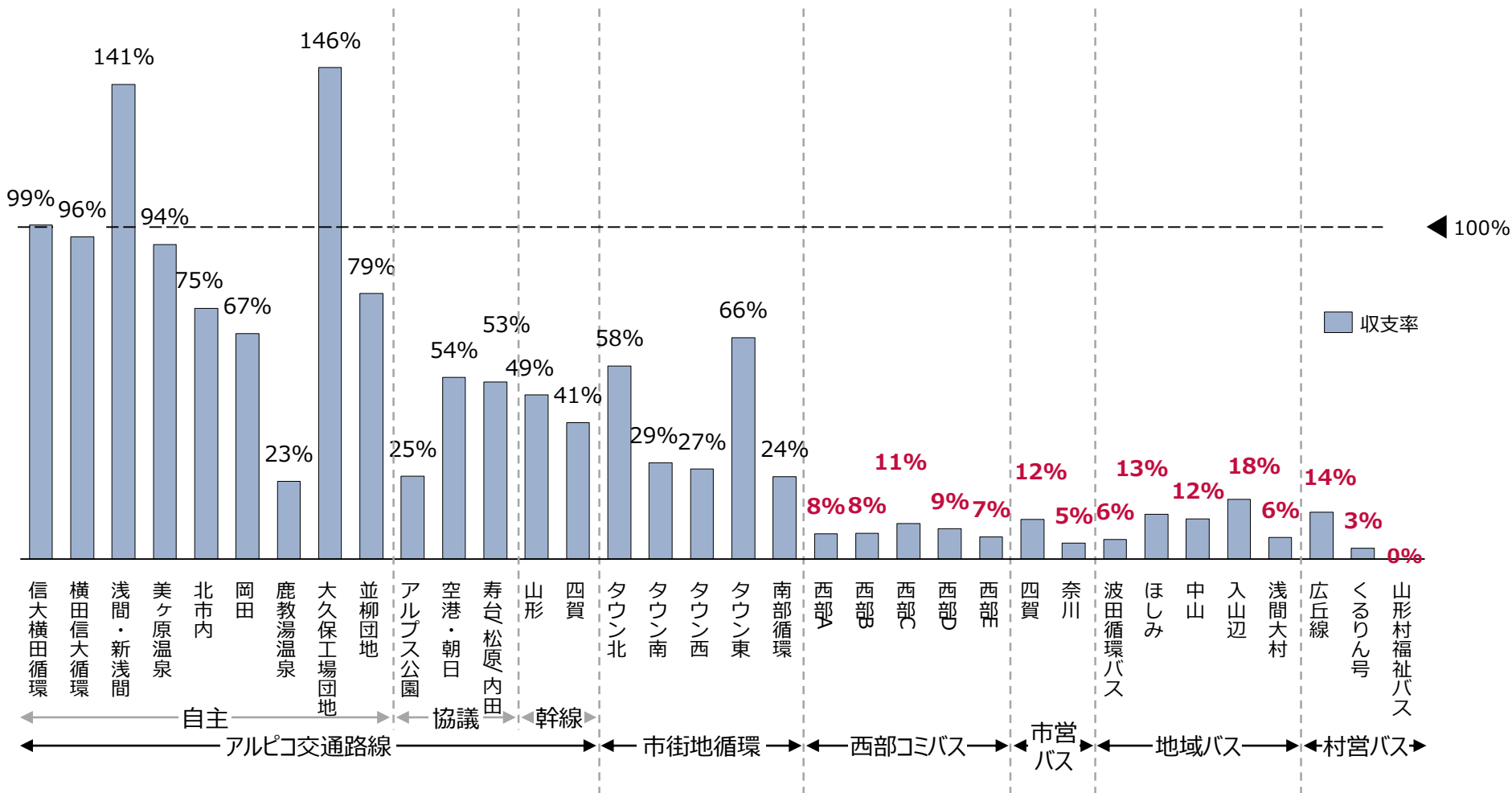
地域公共交通利用者数は長期的に大きく減少しています。
特に路線バスについては、平成21年頃の時点で昭和53年の20%の水準にまで落ち込んでいる

公共交通利用者数の長期推移



路線別収支（2019年度・推計）

- アルピコ交通の主要な自主路線の収支率は100%に近いが、西部コミバス・市営バス・地域バス・村営バスでは20%未満

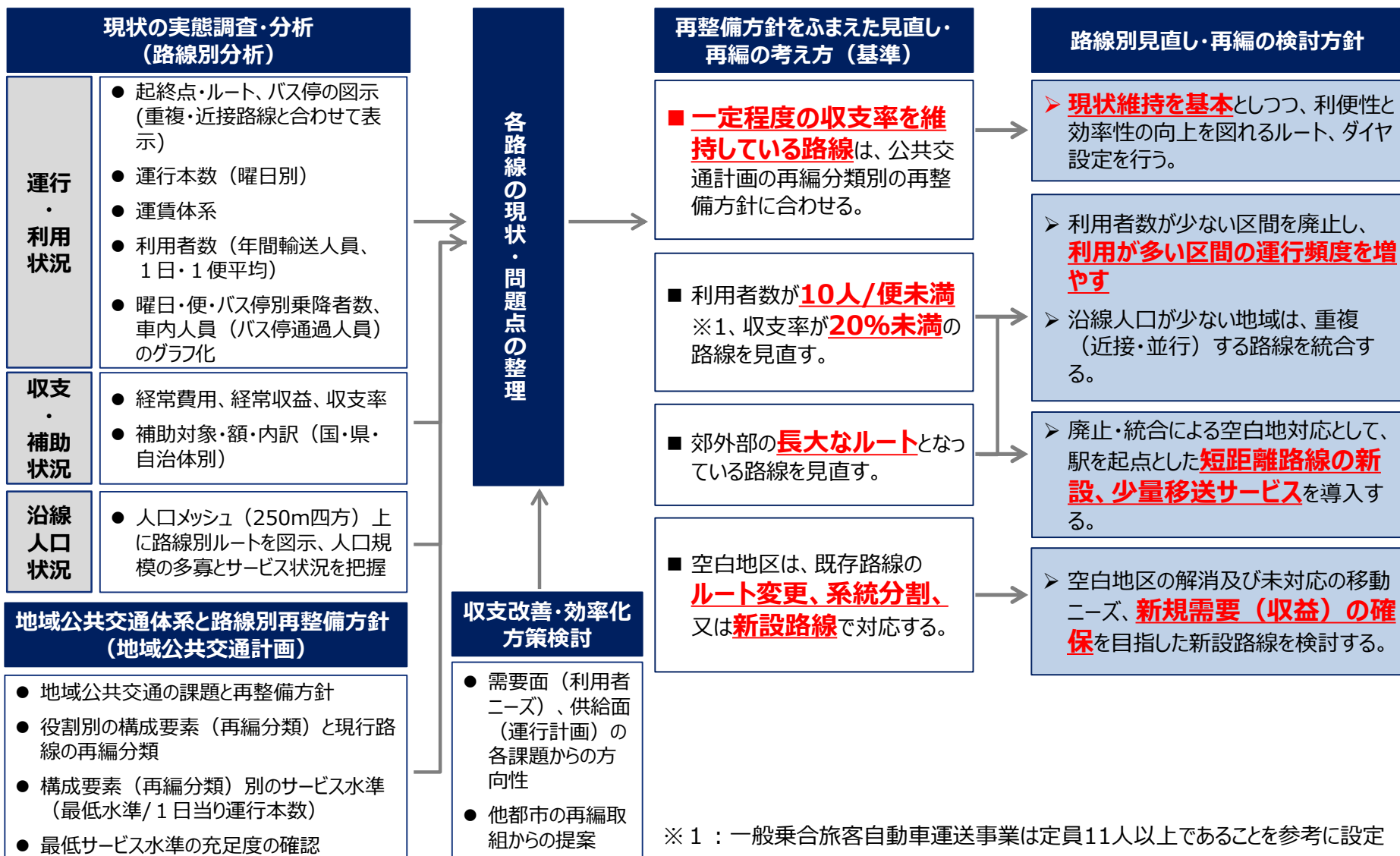


※ 松本市福祉100円バス助成事業委託料および各協議会からの繰入金は経常収益に含めていない

新制度（案）の基本的な方向性（現制度との比較）

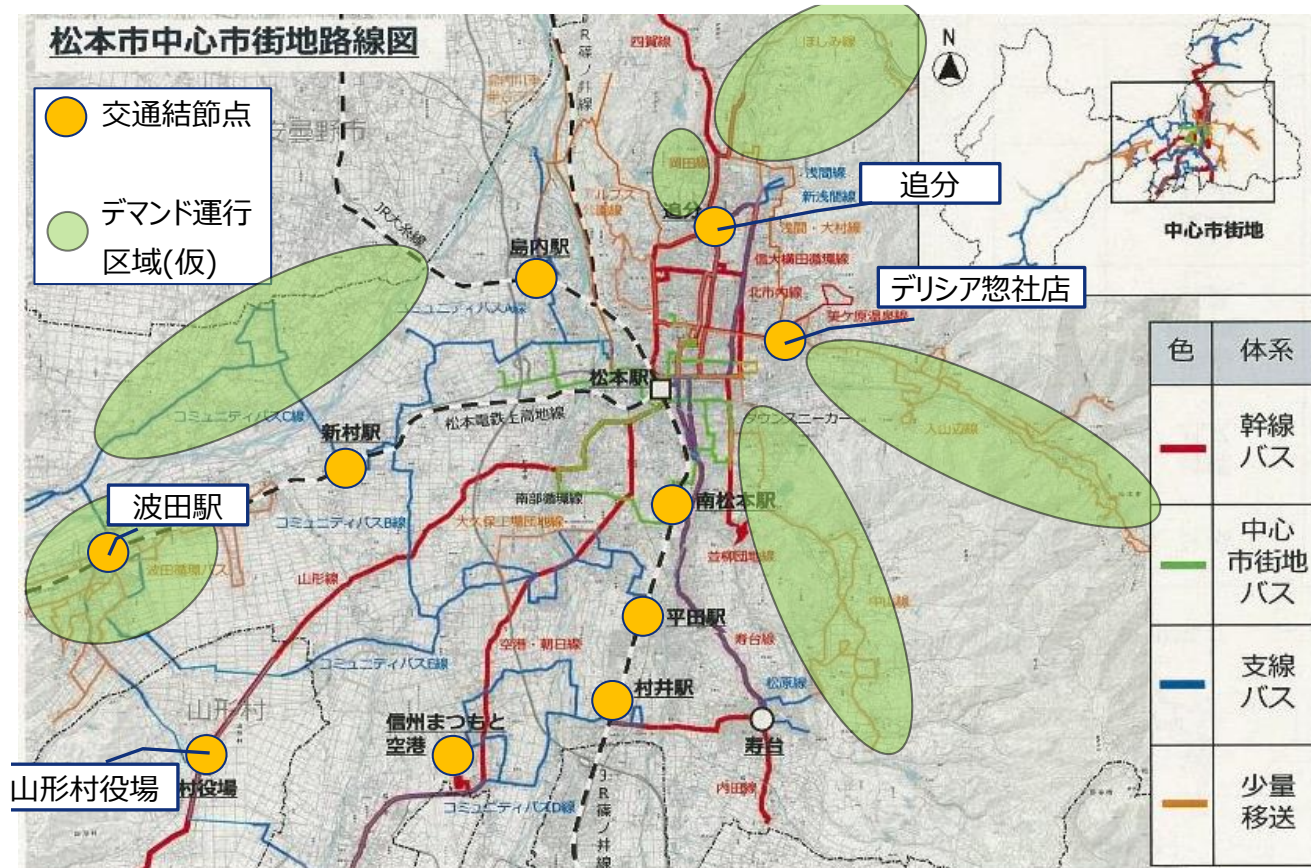
	新制度（案）	現行制度	メリット
委託範囲	<ul style="list-style-type: none"> ✓ エリア全体（地域バスは除く） 一部路線については別事業者へ外部委託を許容 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 路線単位 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ スムーズな乗り継ぎ等、市域全体のネットワークの効率化
契約期間	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 5年間 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 単年度 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 車両等の設備投資や運転士採用の計画が立てやすい
車両の保有 (修繕・維持管理含む)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業者 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 自治体と民間事業者が混在 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 車両調達費と整備費の最適化が可能 ✓ 車両運用の効率化
収入リスク負担 (インセンティブ)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 運行経費と運送収入の想定を基に負担金額を予め設定し、事業者のリスク負担に見合う利潤を許容 事業者の経営努力の部分は事業者の利益とし、利用者数による損益は、双方で分け合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 赤字補填のため、インセンティブが働かずサービス水準の向上や、運行効率化に繋がらない 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ サービス向上や効率化、収支改善を積極的に行う意識付けができる
公民の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 行政（地元協議会） 運行条件、水準の設定（ルート、起終点、サービス水準、運賃水準等） ✓ 民間事業者 運行業務、ダイヤ編成、仕業の設定、車両調達・保有・修繕等 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 行政、民間事業者、地元協議会が混在 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 行政が運行条件やサービス水準を設定することにより、利便性の向上が図れる

路線ネットワークの再編案の考え方、検討方針



再編と交通結節点（案）

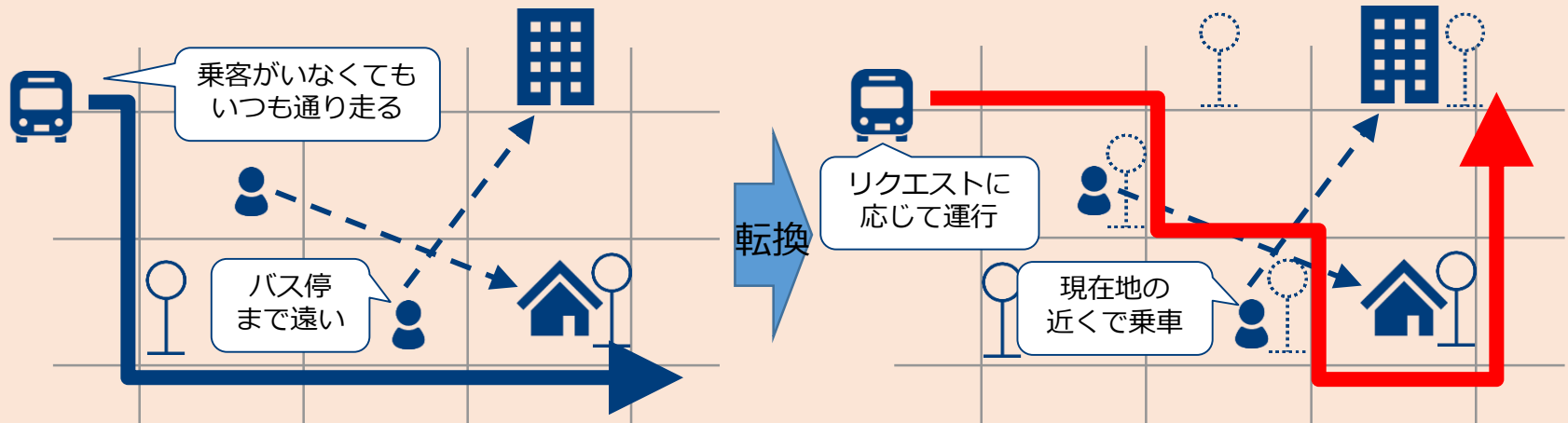
- デマンド運行や既存路線を交通結節点に接続させることにより、中心市街地への移動を確保する。
- 高齢化率が高い地域を運行している路線（地域バス）をデマンド運行に切り替えることにより、経費の圧縮を図りながら利便性の向上を図る。
- デマンド運行AIシステムを導入し、MaaSアプリとの連携によりサービス拡充を図れるが、不慣れな高齢者へのフォローが必要。
- 行政が運賃水準を設定することより、利用しやすい料金体系の設計を図る。
- エリア全体のネットワークを一体的に再編することにより、スムーズな乗り換えを図ながら、空港等の既存の施設を活用した交通結節点のバス待ち環境の整備を図る。



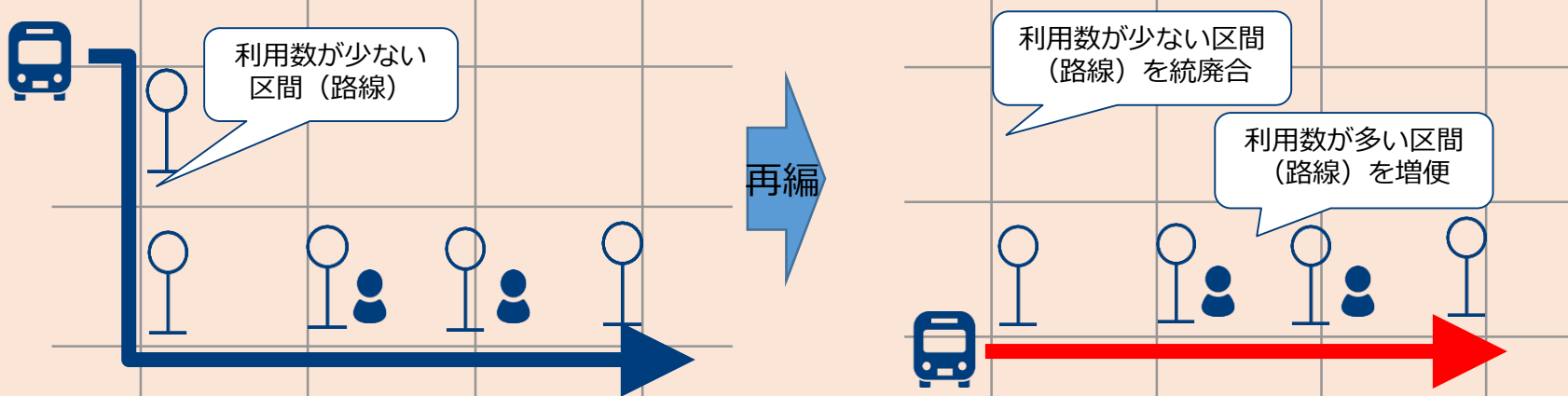
路線の再編による利便性の向上

- 現状の路線で利用者数が少ない路線をデマンド運行に変換し、必要な時に必要なだけ運行することにより、運行経費を抑制しながら、利用者の利便向上を図る。
- 利用が少ない路線（バス停間）を統廃合し、他路線（バス停間）の運行本数を増やすことで、利用者の利便向上を図る。

【デマンド運行イメージ】



【既存路線の再編イメージ】



路線バスに関するアンケート調査（和田地区）

1 概要

(1) 趣旨

松本市における公共交通の現状と、今後の在り方を考える機会とするため、広く市民の意見を聴取したものです。

(2) 実施期間

令和3年8月19日（木）～令和3年9月5日（日）

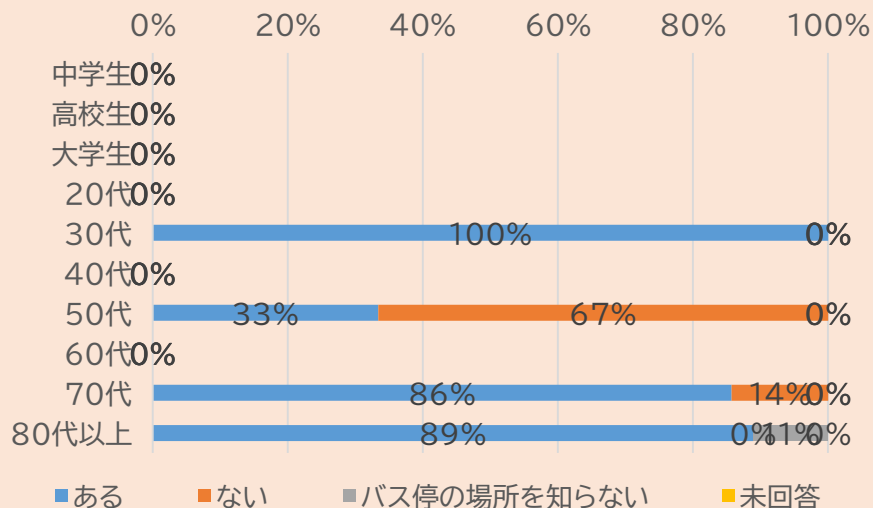
(3) 年齢別回答数（和田地区）

中学生	高校生	大学生	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明	合計
0	0	0	0	1	0	3	0	7	10	0	21

（市全体回答数：2,434件）

2 アンケート集計結果

(1) 自宅から歩いて行ける距離にバス停はあるか

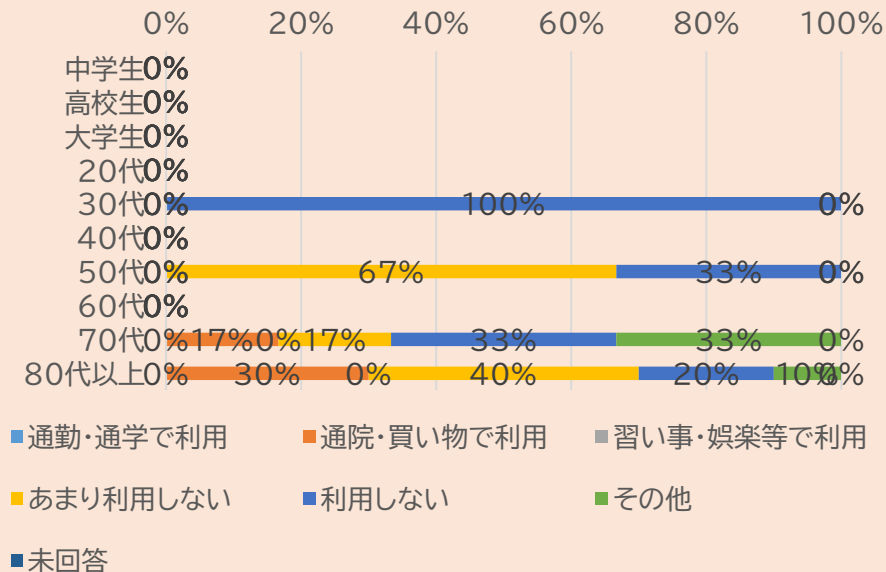


【バス停があると回答した割合比較】

	和田地区	市全体
70代	86%	83%
80代以上	89%	80%

和田地区内には、山形線、西部コミバスB線が通っており、概ね住宅地付近を路線バスが走っているが、バス停まで歩いていけない住民も一定数いる。

(2) 路線バスの利用目的

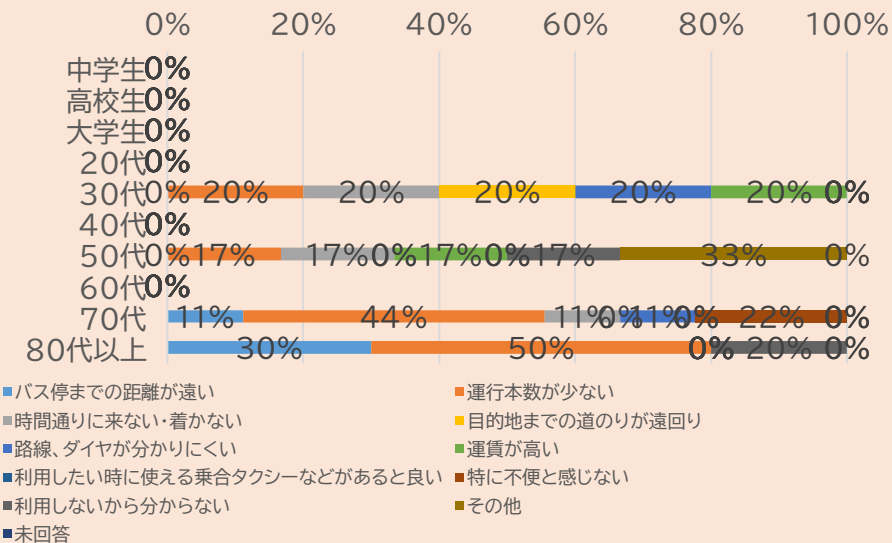


【あまり利用しない・使用しない 合計値の割合比較】

	和田地区	市全体
70代	50%	67%
80代以上	60%	58%
平均	55%	62.5%

和田地区では、通院・買い物での利用が一部見られるが、約半数は利用しないかあまり利用しない状況である。

(3) 路線バスが不便だと感じる点や改善点



【バス停までが遠いと回答した割合比較】

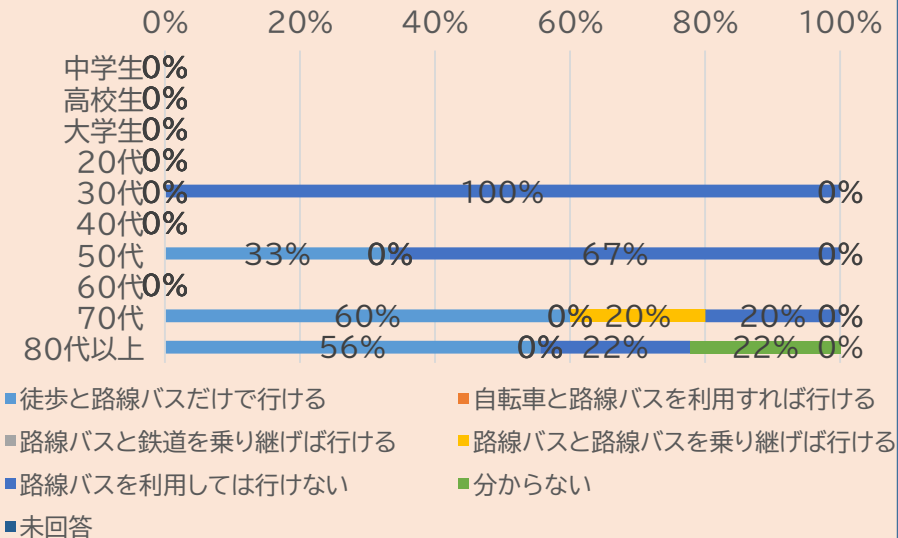
	和田地区	市全体
70代	11%	10%
80代以上	30%	12%

【運行本数が少ないと回答した割合比較】

	和田地区	市全体
70代	44%	23%
80代以上	50%	22%

不便な点として、運行本数の少なさと回答した割合が、市全体の割合より大きく上回っている。

(4) 路線バスを利用して目的地まで行けるか

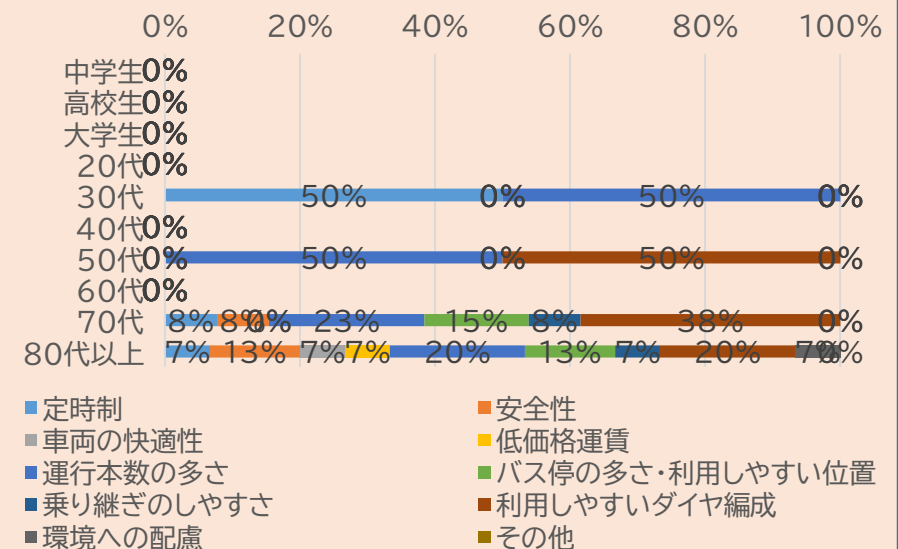


【徒歩とバスだけで行けると回答した割合比較】

	和田地区	市全体
70代	60%	46%
80代以上	56%	48%

徒歩とバスだけで目的地まで行けると回答した割合は、市全体に比べ高くなっているが、バスを利用しては行けないと回答した住民も一定数存在する。

(5) 路線バスに求めるもの



【利用しやすいダイヤ編成と回答した割合比較】

	和田地区	市全体
70代	38%	19%
80代以上	20%	17%

市全体と比べて、利用しやすいダイヤ編成を希望する回答割合が高くなっている。

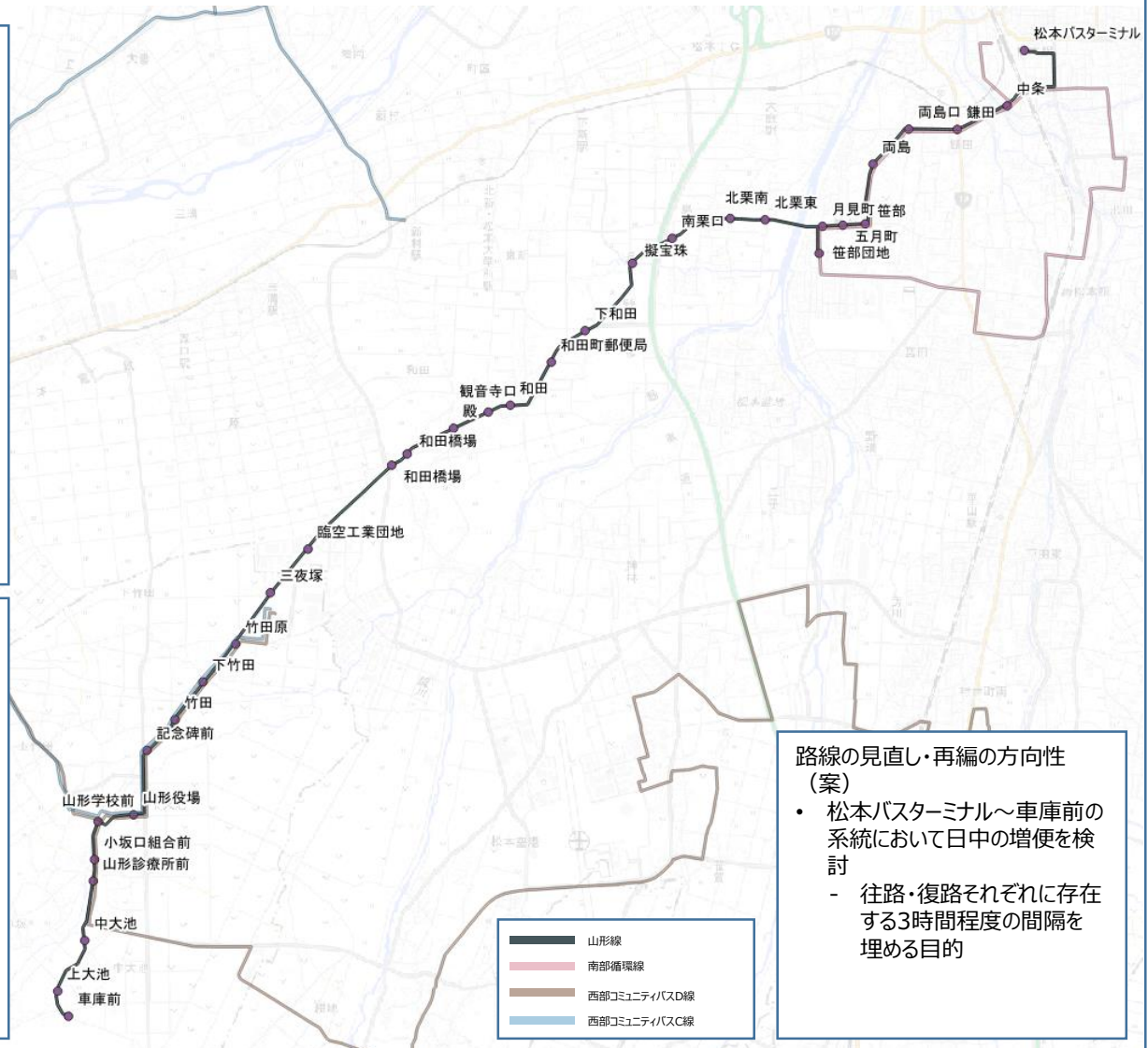
⑫山形線

運行概要*1

山形線	
起終点	松本バスターミナル⇄笹部団地、車庫前
主な経由地	笹部、笹部団地、和田、臨空工業団地、山形役場、上大池
運行本数	笹部団地行 12便（土休日 10便） 車庫前行 16便（土休日 12便）
運賃（最大）	790 円
キロ程	3.8～15.2 km
輸送人員	70,855 人/年
経常費用	46,147 千円/年
経常収益	26,063 千円/年
収支率	56%
1日乗降者数 ^{*2}	笹部団地 17人 / 車庫前 160人
1便乗降者数 ^{*2}	笹部団地 1.4人 / 車庫前 10.0人
補助額 ^{*3}	9,429 千円/年

路線の現状・問題点

- 並走する路線（区間）
 - 南部循環線（松本バスターミナル～笹部団地）
 - 西部地域コミュニティバスD線（竹田原～山形役場）
- 以下の2系統が運行
 - 松本バスターミナル～笹部団地（12便/日）
 - 松本バスターミナル～車庫前（16便/日）
- 以下のエリアから松本駅方面への利用が一定数存在
 - 笹部団地～月見町
 - 山形診療所前～臨空工業団地
- 日中午後、運行間隔が空く時間帯がある



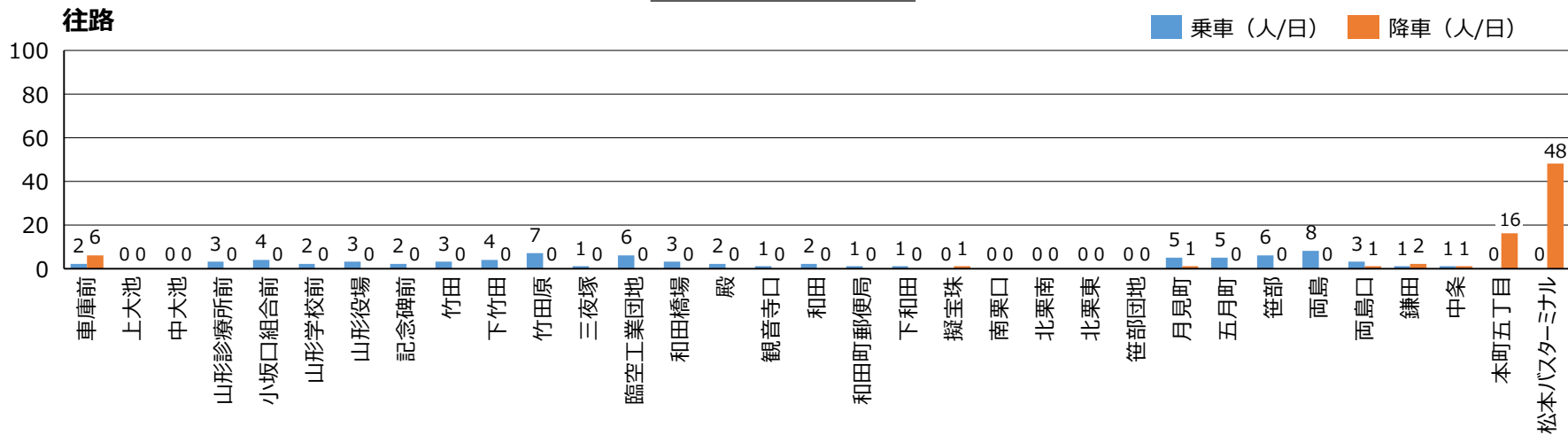
路線の見直し・再編の方向性（案）

- 松本バスターミナル～車庫前の系統において日中の増便を検討
 - 往路・復路それぞれに存在する3時間程度の間隔を埋める目的

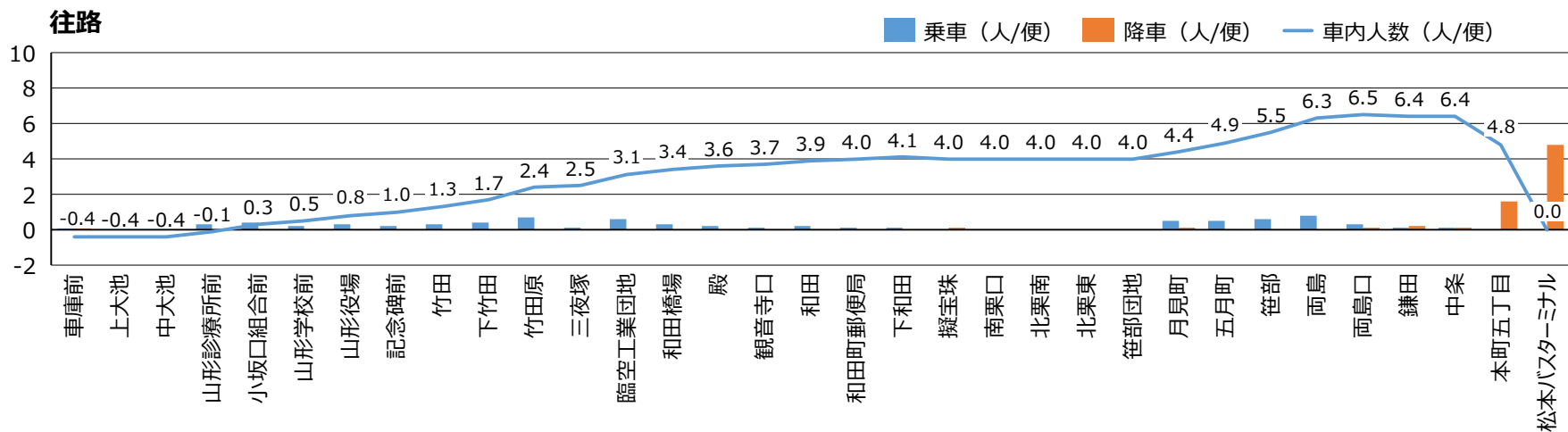
⑫山形線 上大池

<2020年度乗降調査 平日>

1日当たり乗降者数合計



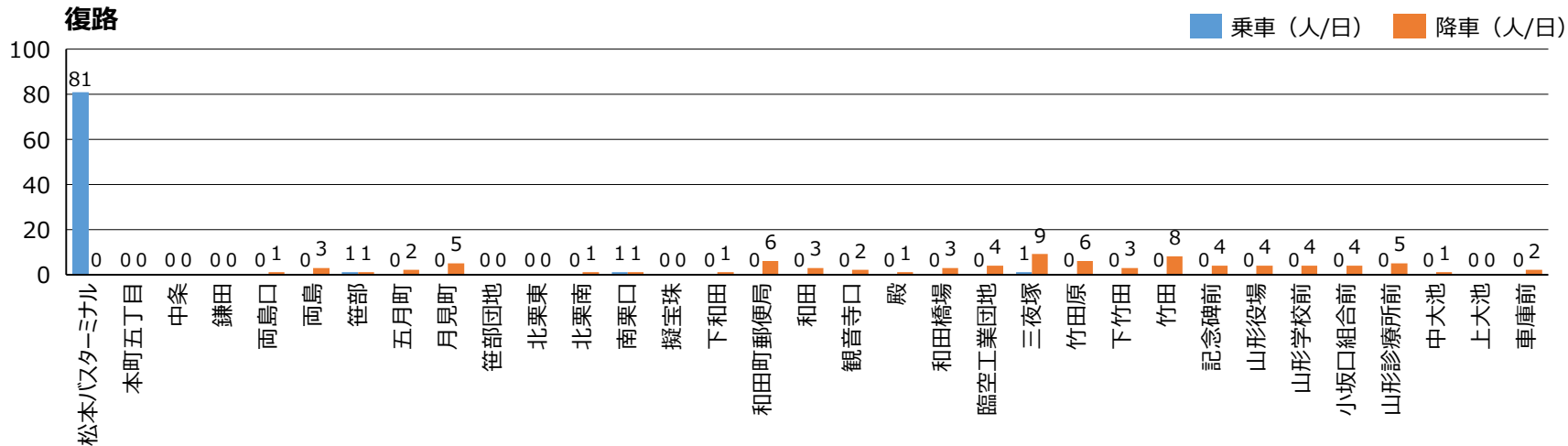
1便当たり平均乗降者数・車内人数



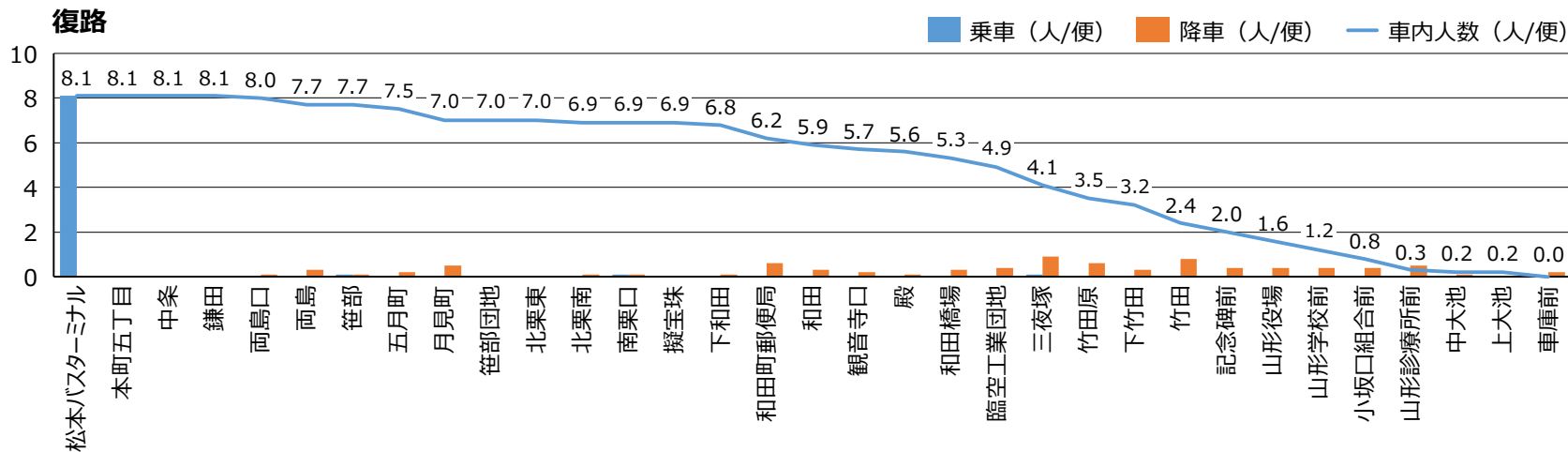
⑫山形線 上大池

<2020年度乗降調査 平日>

1日当たり乗降者数合計



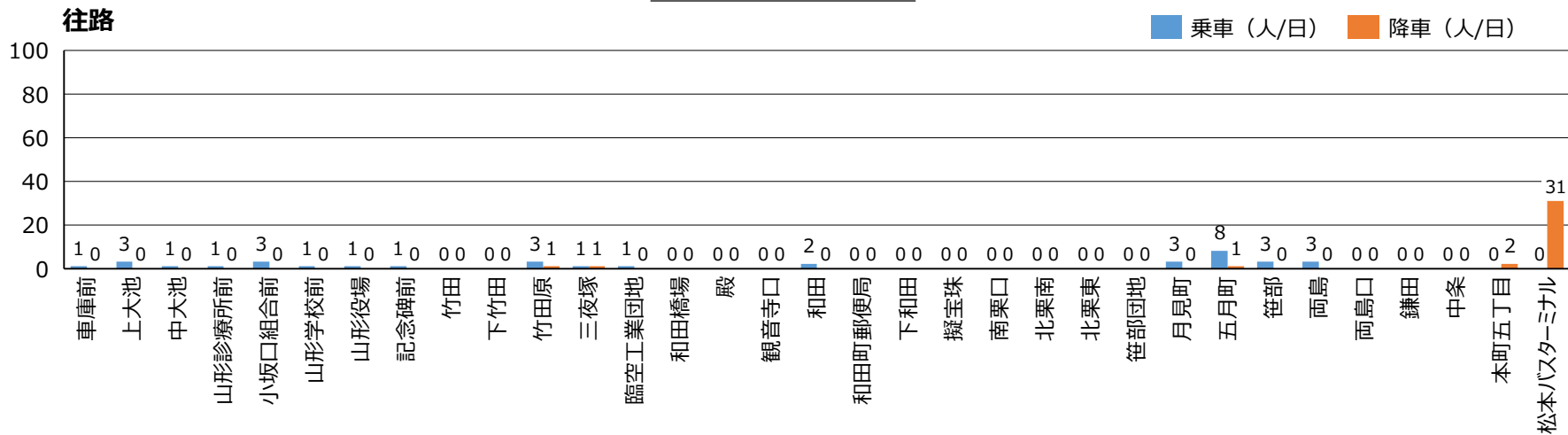
1便当たり平均乗降者数・車内人数



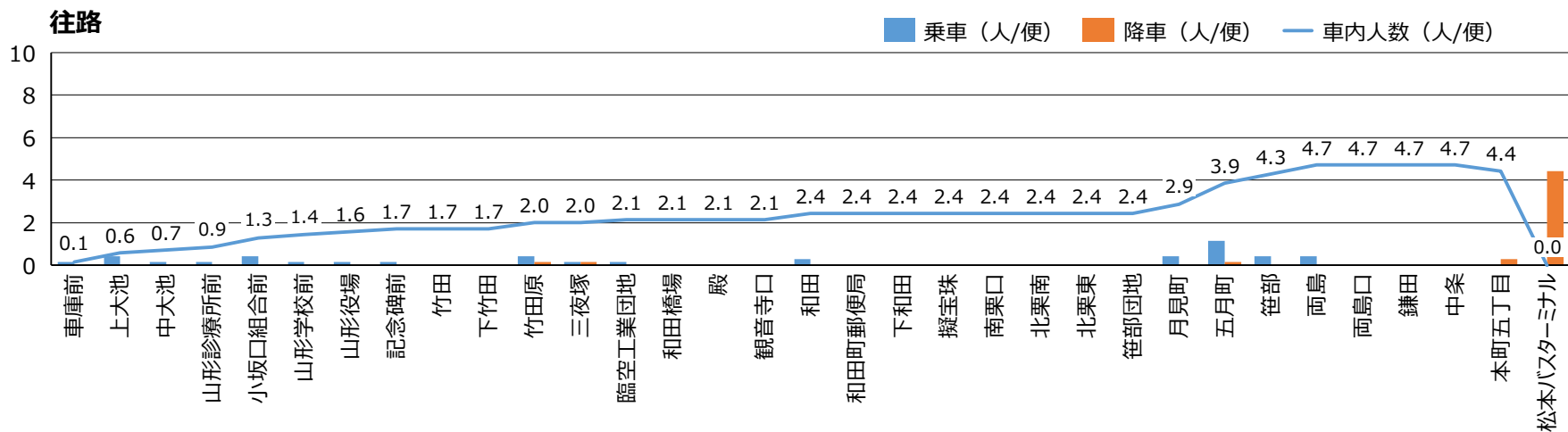
⑫山形線 上大池

<2020年度乗降調査 土曜>

1日当たり乗降者数合計



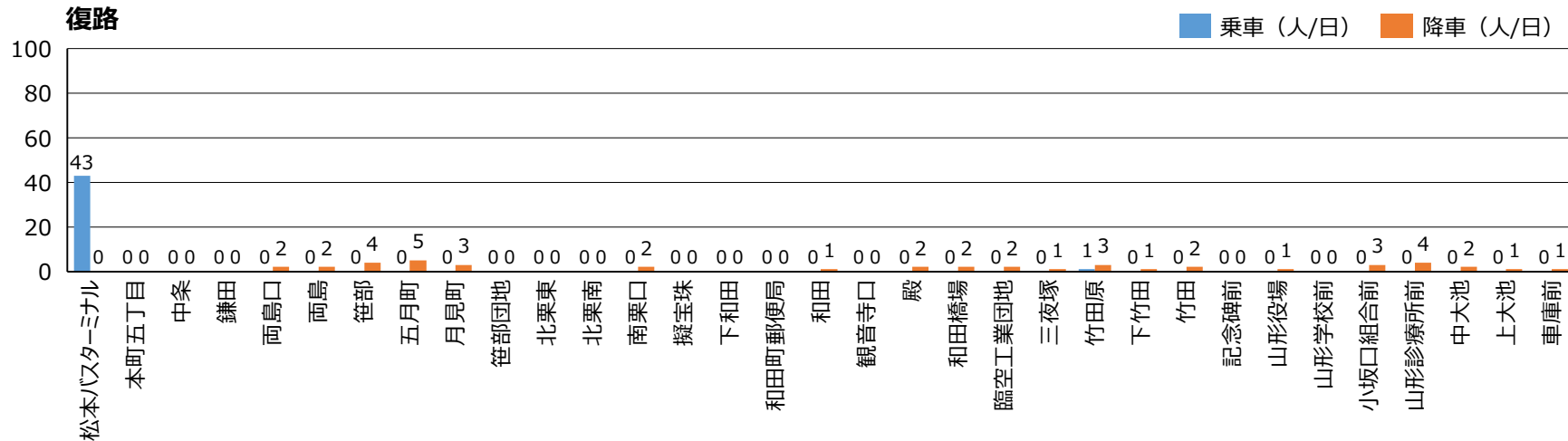
1便当たり平均乗降者数・車内人数



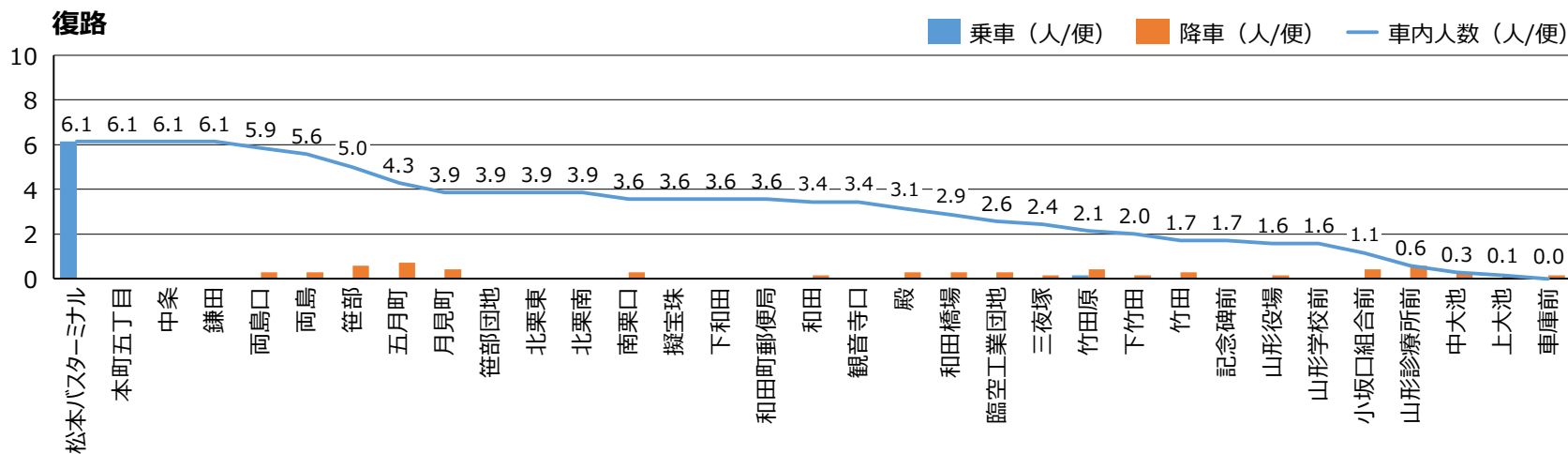
⑫山形線 上大池

<2020年度乗降調査 土曜>

1日当たり乗降者数合計



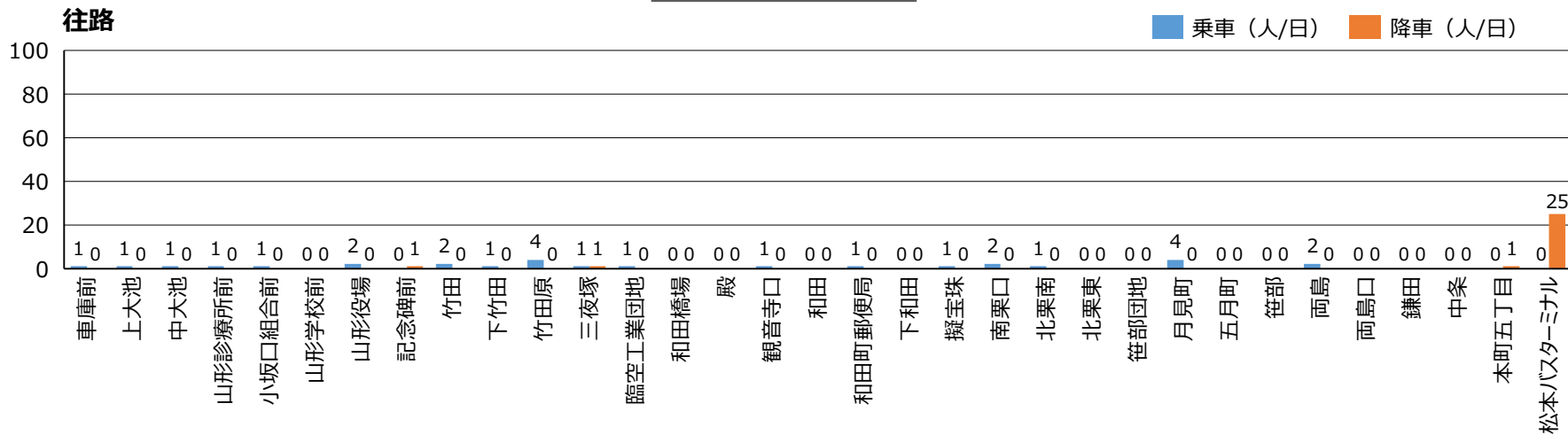
1便当たり平均乗降者数・車内人数



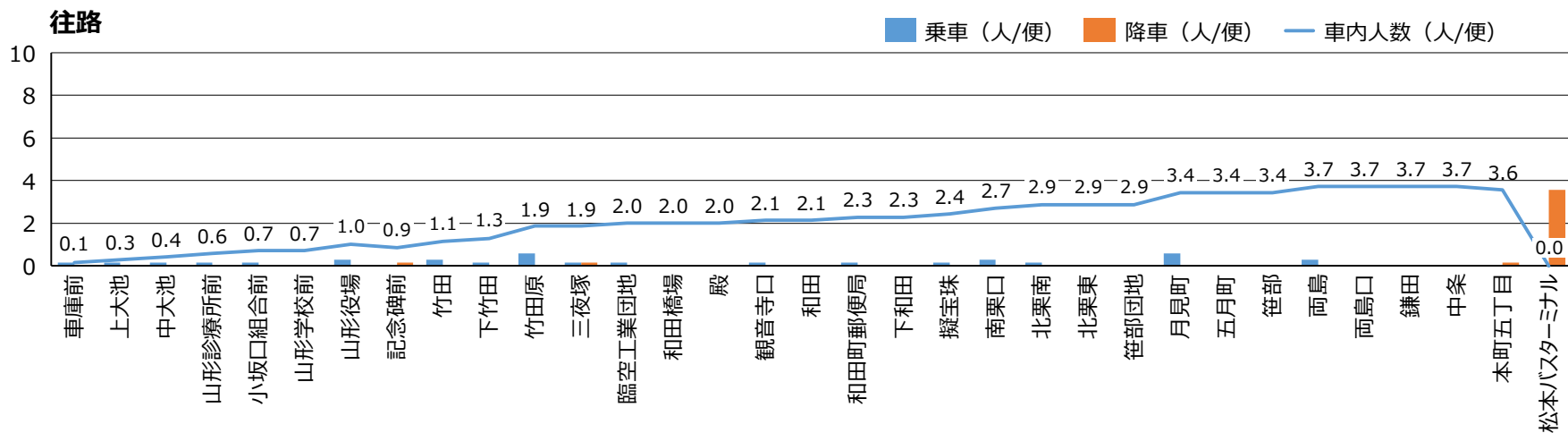
⑫山形線 上大池

<2020年度乗降調査 日曜>

1日当たり乗降者数合計



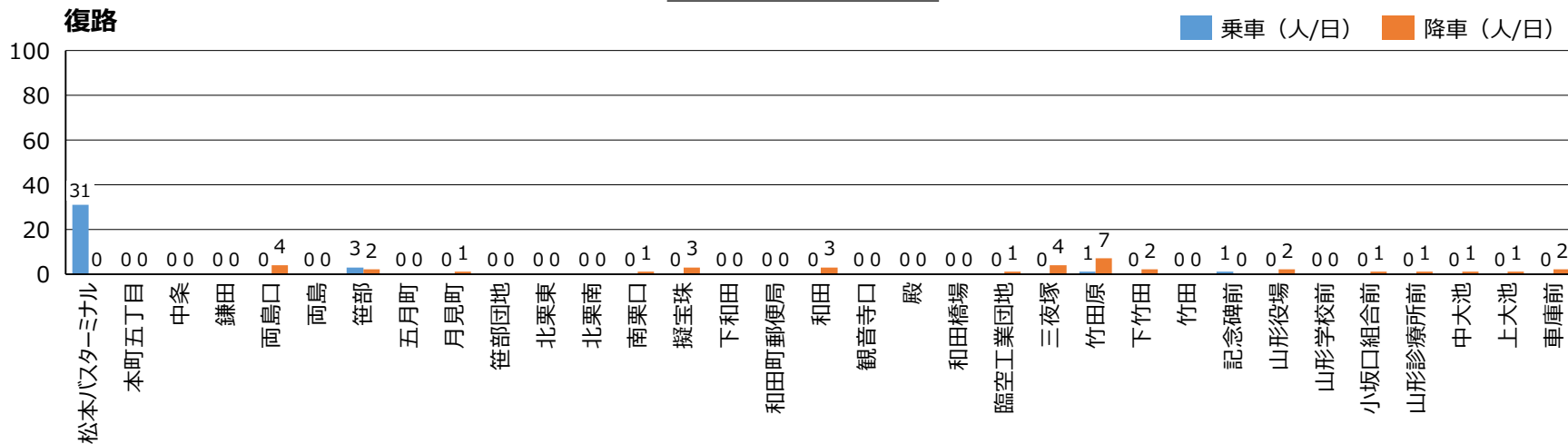
1便当たり平均乗降者数・車内人数



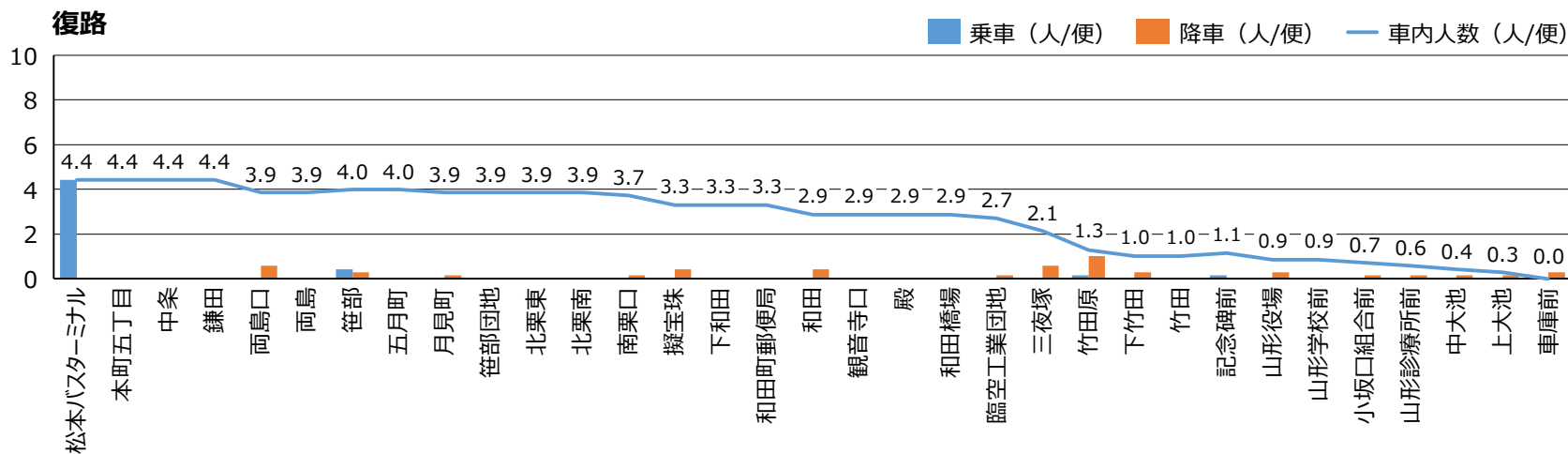
⑫山形線 上大池

<2020年度乗降調査 日曜>

1日当たり乗降者数合計



1便当たり平均乗降者数・車内人数



②西部地域コミュニティバスB線

運行概要*1

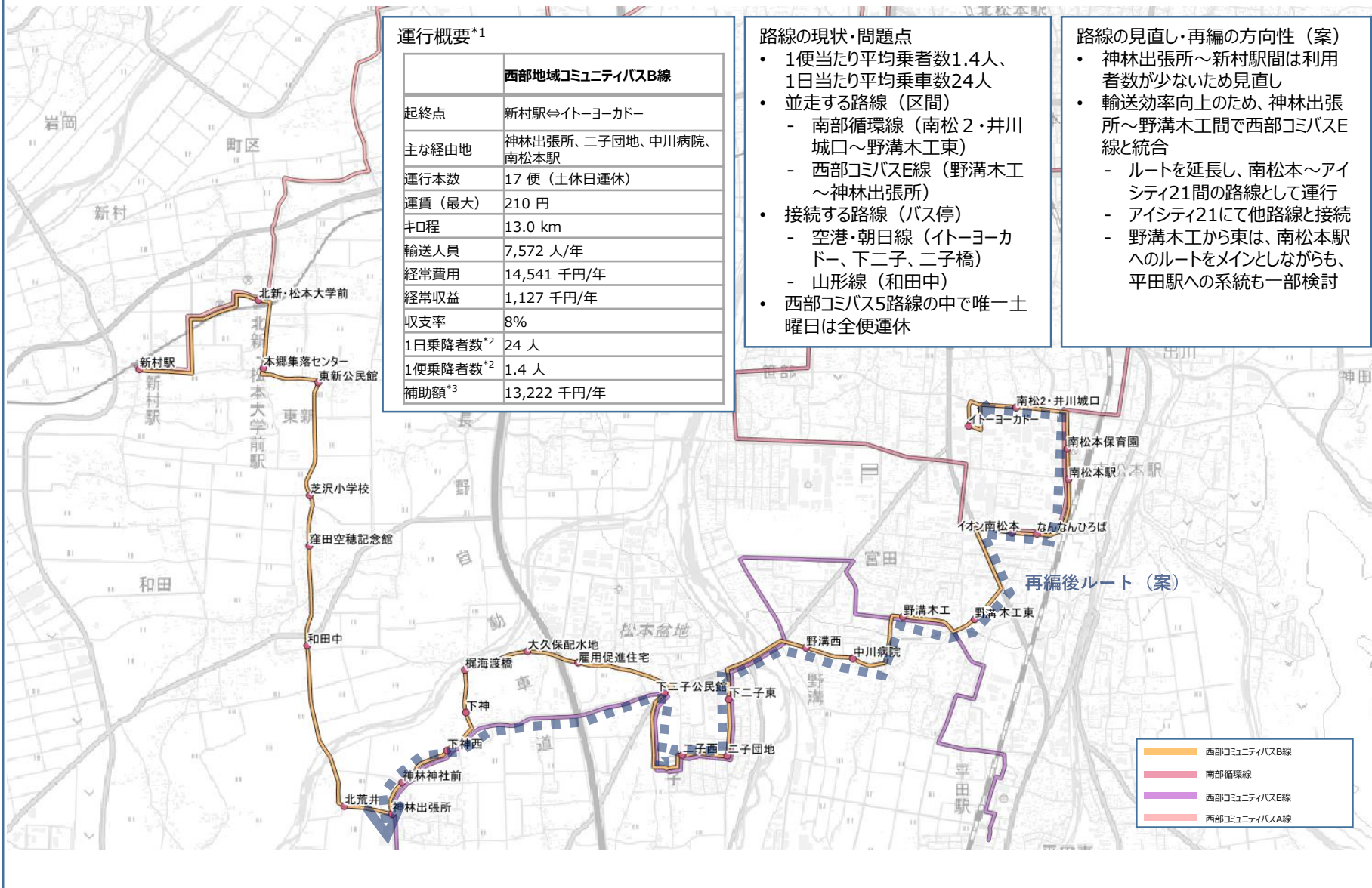
西部地域コミュニティバスB線	
起終点	新村駅⇔イトーヨーカドー
主な経由地	神林出張所、二子団地、中川病院、南松本駅
運行本数	17 便（土休日運休）
運賃（最大）	210 円
キロ程	13.0 km
輸送人員	7,572 人/年
経常費用	14,541 千円/年
経常収益	1,127 千円/年
収支率	8%
1日乗降者数*2	24 人
1便乗降者数*2	1.4 人
補助額*3	13,222 千円/年

路線の現状・問題点

- 1便当たり平均乗者数1.4人、1日当たり平均乗車数24人
- 並走する路線（区間）
 - 南部循環線（南松2・井川城口～野溝木工東）
 - 西部コミバスE線（野溝木工～神林出張所）
- 接続する路線（バス停）
 - 空港・朝日線（イトーヨーカドー、下二子、二子橋）
 - 山形線（和田中）
- 西部コミバス5路線の中で唯一土曜日は全便運休

路線の見直し・再編の方向性（案）

- 神林出張所～新村駅間は利用者数が少ないため見直し
- 輸送効率向上のため、神林出張所～野溝木工間で西部コミバスE線と統合
 - ルートを延長し、南松本～アイシティ21間の路線として運行
 - アイシティ21にて他路線と接続
 - 野溝木工から東は、南松本駅へのルートを中心にしながらも、平田駅への系統も一部検討

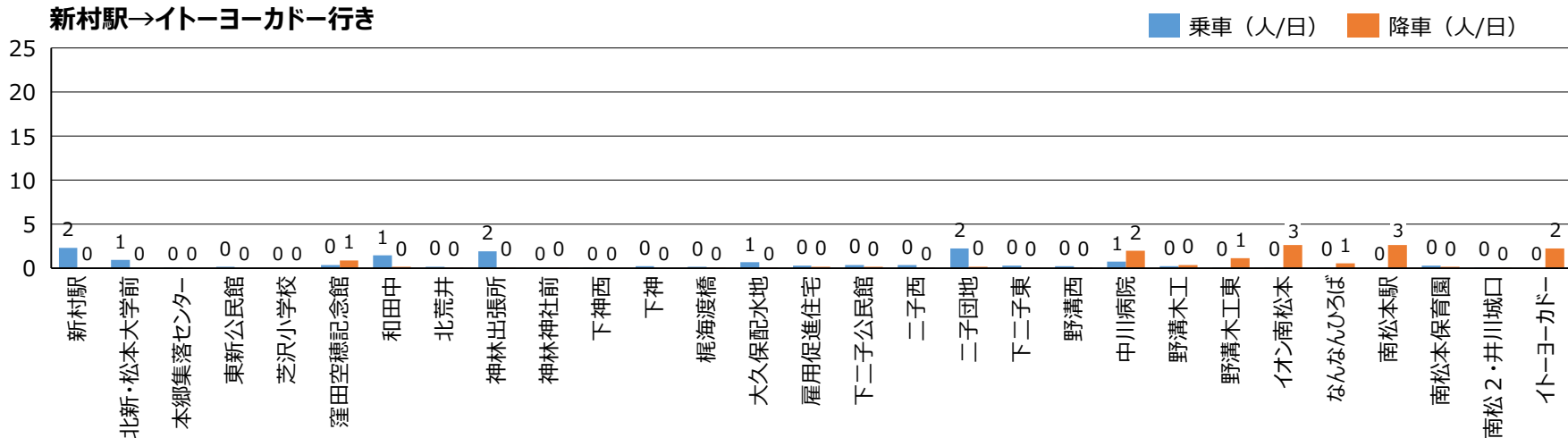


*1：1日乗降者数及び1便乗降者数以外は2019年度の値 *2：2020年平日の値 *3：福祉100円バス助成事業委託料は除く

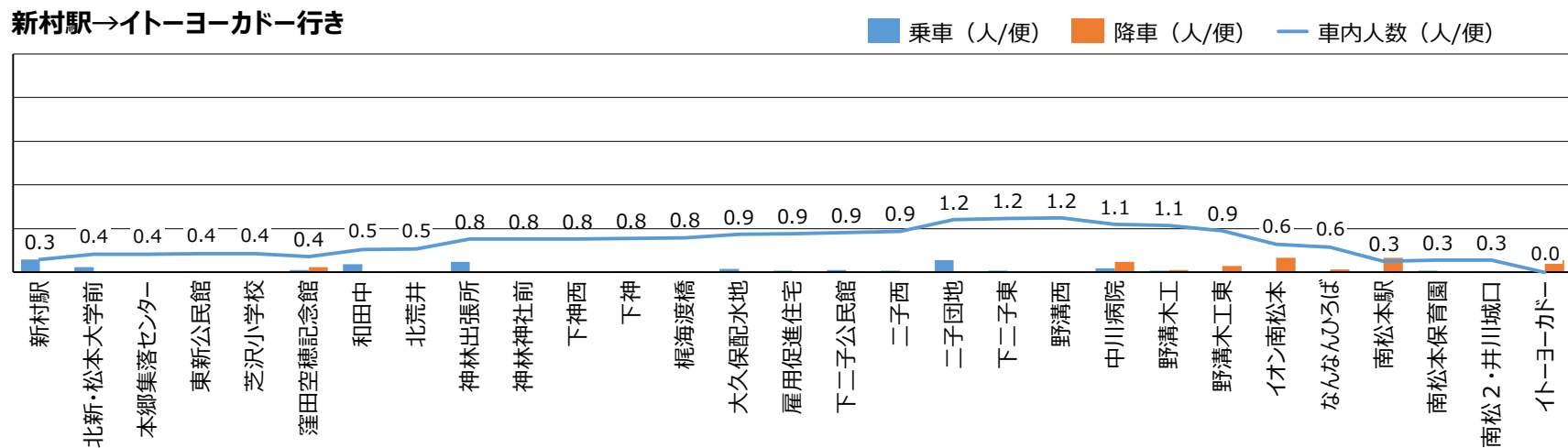
②西部地域コミュニティバスB線

<2020年度乗降者数 年間平均>

1日当たり乗降者数合計



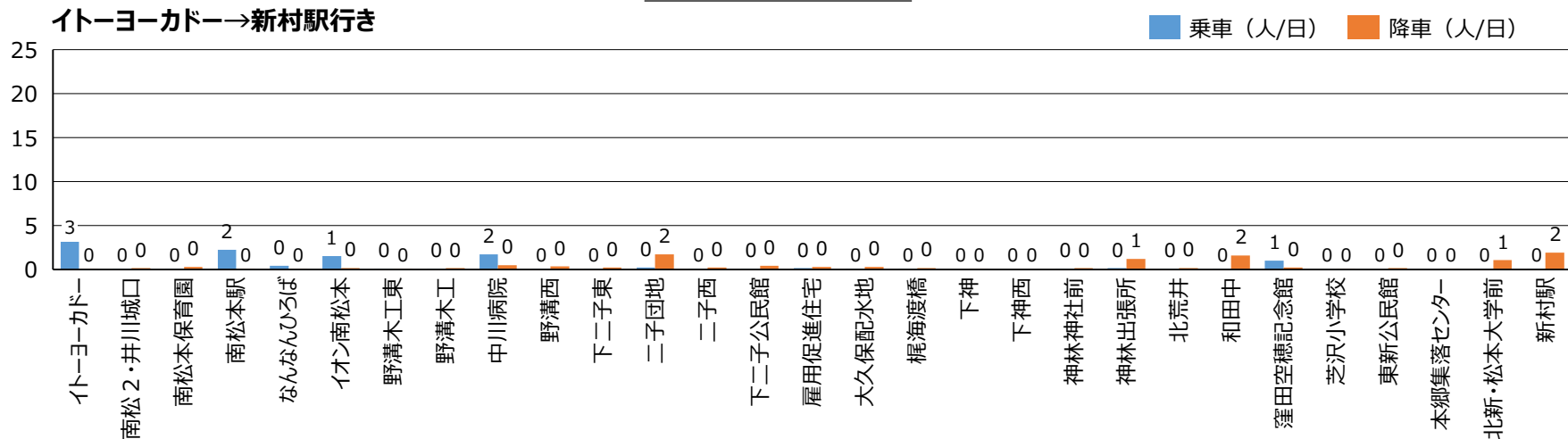
1便当たり平均乗降者数・車内人数



②西部地域コミュニティバスB線

<2020年度乗降者数 年間平均>

1日当たり乗降者数合計



1便当たり平均乗降者数・車内人数

